

EUの生乳・乳製品の短期需給見通し

欧州委員会は、最新のデータと欧州委員会の市場専門家の意見を基に、春先、初夏、初秋の3回にわたり農畜産物の短期的需給見通し（SHORT-TERM OUTLOOK for EU agricultural markets）を公表している。ここでは、初夏（2023年7月14日）に公表されたデータの中から、生乳・乳製品の短期需給見通しについて概要を紹介する。

1. 要約

2023年のEUにおける生乳生産量の見通しは、今春の順調な回復（1月～4月、前年対比+0.8%）にもかかわらず修正されていない（同-0.2%）。昨年の冬から今年の春に増加すると予想されていた屠畜は先送りされているものの、年内には乳牛飼養頭数が前年に比べて1%減少すると見込まれるからである。また、この段階では、夏の天候によって生乳生産量の伸びが修正される可能性がある。なお、EUの生乳価格は下落し続けており、生産資材価格の一部はすでに下落または安定化を示しているにもかかわらず、生産コストは高い水準に止まっている。これは、生乳生産に下向きの圧力をかけ続ける可能性がある。

EUにおける乳製品の需要（使用と消費）は、粉乳が加工コスト高によって抑制されており、他の乳製品（バター、チーズ、生鮮乳製品など）は消費者による安価な代替品の選択に影響されている。これにより、チーズとバターの需要拡大は限定的となり、生鮮乳製品（牛乳、クリーム、乳飲料など）の需要は0.7%減少する可能性がある。輸出量の予想はバターと脱脂粉乳（ともに+2ポイント）で上方修正されたが、チーズとホエイ（ともに-1ポイント）、生鮮乳製品（-5ポイント）で下方修正された。これによって、より多くの生乳がバターと脱脂粉乳に仕向けられるため、乳製品の生産量はわずかに

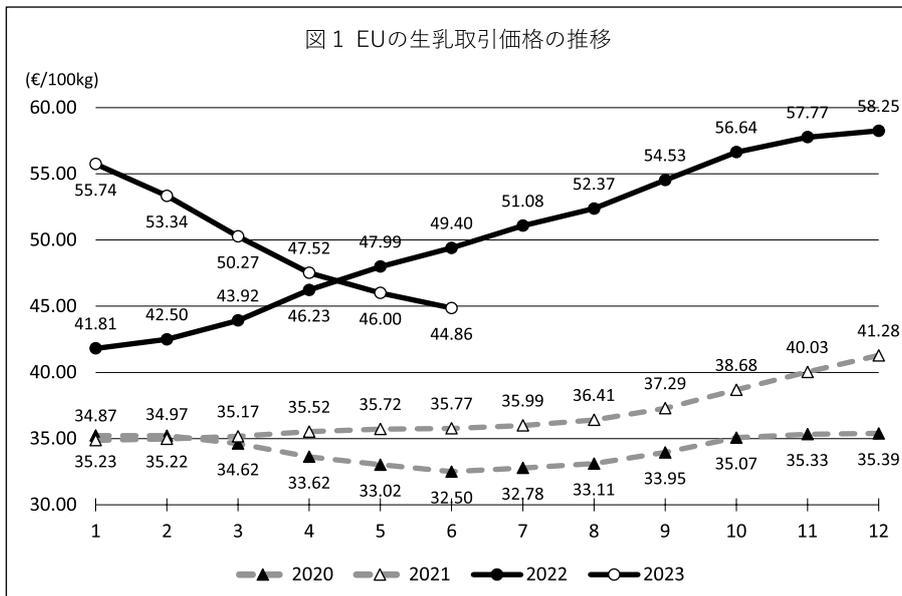
減少することになる。なかでも、全脂粉乳の生産量の減少はわずかに大きくなる可能性がある。

2. 生乳価格は下落を続ける

今年の初めから、EUの生乳価格は下落しており、6月の推定生乳平均価格は約45 €/100kgで、昨年12月に到達したピーク（約58€/100kg）を23%下回った（図1参照）。6月の状況はEU諸国ごとに異なり、生乳価格の下落はおおよそ-2%から-30%の範囲内で、それ以上の下落は、バルト諸国、ベネルクス、デンマークおよびドイツでみられた。しかし、6月の推定に基づく、2022年12月から23年6月の間の最も大きい減少（約-40%）は、アイルランドとルーマニアで記録された。

一部の生産資材価格は低下を続けている。たとえば、飼料価格は昨年の第4四半期にピークに達した後、今年の第1四半期に上昇を示さなくなった。しかし、過去に観察された平均レベルと比較して、依然として高い水準のままである。飼料価格より高いピークを記録したエネルギーと肥料の価格指数は、より多く低下した。

EUの生乳価格の低下にともなって、EU産の乳製品価格も下落した。脱脂粉乳、全脂粉乳およびバターは、春に観察された低下傾向がいくらか緩和（全脂粉乳はわずかに上昇）したが、チーズとホエイの価格はさらに下落した。現在、これらの動きは、EU産乳製品の輸出競争



資料：European Commission "HISTORICAL EU PRICE SERIES of COW's RAW MILK"

注）生乳取引価格は、ルクセンブルグを除く26か国の加重平均である。

力の向上に貢献している。6月下旬におけるEUのバター価格は、主要な輸出競争相手国の中で最も低く、他の乳製品（脱脂粉乳、全脂粉乳、チェダーチーズ）の価格は、EU産が2番目に低かった。

3. 生乳出荷に前向きな傾向は戻る可能性が高い

生乳価格の下落にもかかわらず、本年1月から4月のEUの生乳出荷量は昨年と比較して0.8%増加した。しかし、それらの状況はEU諸国の間で非常に異なっていた。それぞれのEU諸国での生乳価格の推移に関連して、2つの主要な特徴がみられる。第一に、アイルランド、リトアニアなどでは価格の低下がすでに生産量の減少につながっている。第二に、ベネルクス、ドイツ、デンマーク、ポーランドでは、需要量の増加が出荷量の継続的な増加に比例しなかったため、価格の下落をさらに促進した可能性がある。

本年4月までは、乳牛の屠畜頭数が昨年のレベルをわずかに下回っていた。生乳価格が低下し、生産資材価格が依然として高いままであることを考慮すると、今年の冬と今年の春に加速すると予想されていた屠畜は、夏に実施される可能性がある。これにより、EUの乳牛飼養頭数が全体で1%減少し、生乳生産量の増加が全体的に鈍化する見込みである。生乳生産量の増加は、この時期の比較的正常な気象条件を前提として、昨年と同等のレベル（+0.7%）になる可能性がある。近年における乳牛1頭当たり生乳生産量の増加傾向は、飼養頭数減少の影響を緩和するものと考えられる（図2参照）。また、乳牛の屠畜は2022年と比較して生乳の品質向上に貢献する可能性もある。

しかし、乳牛の屠畜が比較的小規模な乳牛群によって促進され、春の生乳出荷量の増加傾向は逆転することが見込まれるため、2023年の生乳出荷量は全体的に減少（-0.2%）のままになる可能性もある。

4. 脱脂粉乳とバターの輸出が増加

EUの生乳供給は増加し続けたが、需要は比例して反応していない。物価の安定化の兆候はあるものの、インフレ圧力は依然として強く、これは食料品だけでなく他の家計支出（エネルギーなど）の増加を通じて消費者の購買力に悪影響を及ぼす。同時に、加工と保管のコストは引き続き軽減される。したがって、2023年春に提示された見通しと比較して、EU域内での乳製品の消費と使

用について大幅な修正はない。

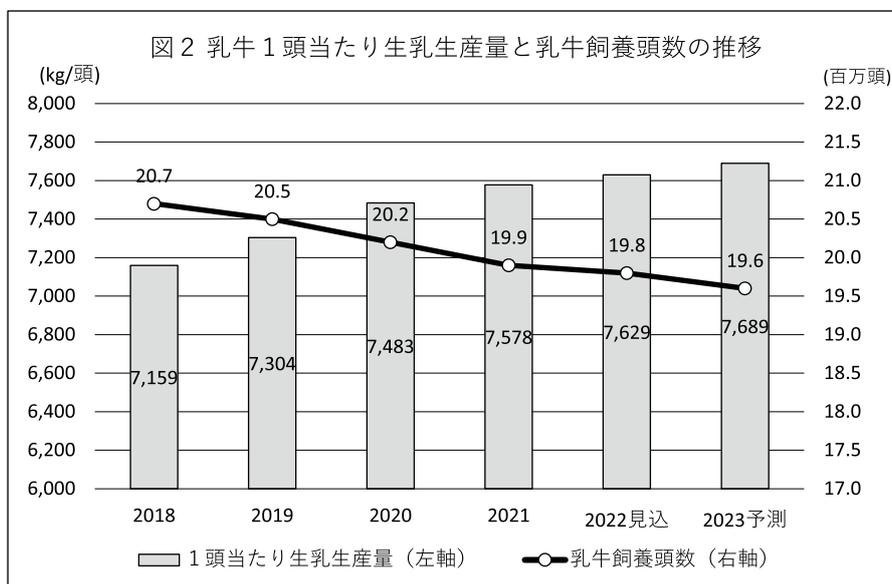
乳製品の需要減少は、主要な輸入国の市場でもインフレ率が上昇しているため、課題となっている。世界的にみると、伝統的に乳製品輸入の最も有力な市場である中国と東南アジアでの輸入の減少は、中東・北アフリカ諸国、ブラジル、メキシコの輸入の増加によって補われた。しかし、輸出競争力の向上によって、EUの輸出は本年1月から3月に脱脂粉乳で33%、バターで11%、ホエイパウダーで5%増加した。とくに、脱脂粉乳とバターの記録的な輸出拡大は、2023年春の見通しで推定されたよりもさらに大きく、2023年のEU輸出の増加（それぞれ10%と4%）につながる可能性がある。一方、1月から3月におけるチーズ（-1%）と生鮮乳製品（-14%）の輸出減少はかなり大きく、これは2023年におけるEU輸出の伸びの低下に反映される。

5. 世界的な需要の改善が市場バランスを回復する可能性

以前の予想に反して、EUの輸出回復基調の下で、EUにおける脱脂粉乳とバターの生産は、輸出の拡大をサポートするために2023年も安定し続ける可能性がある。脱脂粉乳の価格変動の恩恵を受けて、その在庫を削減することもできる。同時に、これは一部の在庫管理費用を削減するのに役立つ。

全体的な生乳出荷量の見通しが2023年春の見通しと同じであり、EUの脱脂粉乳とバター生産の安定性を考慮して、チーズ、ホエイ、全脂粉乳の推定生産量はわずかに下方修正された。同様の生産削減は、食品インフレに関連する消費者行動の変化に、より直接的にさらされている生鮮乳製品にも適用された。

将来的には、経済見通しの改善が世界の乳製品需要を支える鍵となるであろう。これは、生産コストがより低いペースで削減される一方で、生乳価格の下落への反応として、世界の生乳生産の伸びも鈍化する可能性がある。しかし、これが今年下半期の世界の乳製品市場のバランスを回復するのに役立つ可能性がある。一方、中国の輸入の回復は遅く、市場は依然として供給過剰であると想定されているため、これまでのところ他の輸出先で良好な成果が得られているにもかかわらず、不確実性は高いままである。とくにEUにとって、これは競争の激化を意味する可能性もある。



資料：European Commission "SHORT-TERM OUTLOOK for EU agricultural markets in 2023"